

件名：日清戦争を題材とした錦絵が小学校で発見されました

1 発見の経緯

平成28年10月上旬、渋川市立金島小学校（高橋一広校長）の郷土学習室において、同校教頭が棚から紙の束を発見した。中身を確認したところ、戦争を題材とした錦絵（多色刷りの浮世絵版画）であることが判明した。なお、金島小学校に保存されていた経緯については、現在不明である。

2 今回発見された錦絵

- (1) 大きさ 縦36cm×横24cmを3枚続きにしたもの
- (2) 数 量 大判3枚続きが37点（111枚）、ばらが4枚、計115枚

3 今後の取扱い

錦絵の美術的価値等について、現在、専門家に調査を依頼中である。保管の場所や方法等について、金島小学校と市教育委員会で検討していく。

なお、一般公開を2月17日（金）から2月26日（日）までの間に、金島ふれあいセンター（渋川市金井1999番地）で行います。

4 連絡先

金島小学校（TEL：0279-22-2543）
校長 高橋一広
教頭 小島達夫

参考

戦争絵（錦絵）について

文献によると、戦争を題材とした錦絵は、明治時代初期から中期にかけて、西南戦争や日清戦争などの戦況をほぼリアルタイムで大衆に伝える情報メディアの一つとされる。江戸時代の浮世絵を継承する絵師たちによって描かれたものとされる。

西南戦争の頃にブームが訪れ、その後、日清戦争を題材としたものが多く出版された。日露戦争の頃には、情報媒体として写真が普及したことにより、衰退していった。戦争絵については、日清戦争期が最後の隆盛期であったといわれている。

日清戦争錦絵は、約300点出版されたとされている。今回、金島小学校で発見されたものは、そのうちの37点である。

